

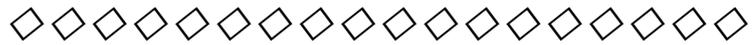


全国のニュースで流れたぐらいですから、世間の興味・関心を引いたことは確かです。水道管の老朽化は何も和歌山市内に限ったことではなく、あちこちで問題となっています。道路が陥没したり水が吹き上がったりと、これまでTVで何度も観てきましたが、自分はどこか他人事と思っていたふしがありました。長期間の断水にならなくてほっとした反面、たくさんのペットボトルやポリタンクを眺めながら、複雑な気持ちになっている方もいらっしゃるかと思います。まずは不自由な生活にならなかったことはよかったですと思っています。

今回は直接教育に関する問題ではなく、ましてや本校は断水の予定もなく、特に対応に苦慮することもなかったです。しかし、このようなことが起きた時、管理職として決して他人事とは思わず、『自分ならどうする?』と考えないといけないと常々思っています。上からの指示や命令を待ち、それを順守することも大切です。状況に応じて動くこともまた必要です。自身の責任うんぬん、つまり保身を考えるのならどうするかは言わずもがなですね。『想定は悲観的に…』ということが肝要。備えあれば憂いなしです。



調査の結果が届いています



4・5年生を対象にした、県の学習到達度調査の結果がすでに学校に届いています。1月中にはお子様を通して担任から返却する予定ですが、結果について結論から申しあげると、両学年とも県平均・市平均より低い結果となりました。ただ、県内各校の平均点の順番に対して、その扱いについては慎重になる必要があるでしょう。例えばクラスの人数がひとケタの学校もありますし、1クラスの学校も県内(いえ市内にも)に多数あるゆえ、その学年の結果がその学校の学力全部を表しているわけではないことを念頭に置いておかなければなりません。とは言っても、反省なくして進歩なし。教職員一人一人の意識と、組織としての取り組みが必要です。

2月から3月にかけて、本校の教職員がこの一年間の研究・研修について冊子にまとめる作業があります。そこに、はじめの言葉として以下のように私は書きました。保護者の方にも紹介しておきます。

はじめに

10年以上前に、生徒を対象にした国際的な学力調査での日本の結果が教育界で話題になりました。そしてそれに呼応するように児童・生徒に求める学力の観点が変化し、その後の全国学力・学習状況調査や和歌山県学習到達度調査にも影響を及ぼしています。本校の結果は、両調査において基礎的基本的な事項の定着とともに、文や挿絵、グラフや表によるページをまたいだ大量の情報を、限られた時間で処理する能力に依然として課題が見られます。

「自分のおもいを豊かに表現する子をめざして」―読む・書く活動を大切に学習指導の工夫―というのが本校の現職教育の目標です。これまで国語科を中心に長年に渡り研究・研修を続けてきましたが、本年度は、特に評価の在り方に焦点をあて授業改善を進めてきました。「指導と評価の一体化」という言葉がありますが、普段の授業でワークシートやノート、発言等を見取り、聞き取り、読み取って評価し、次時の授業の指導・支援に反映するという一連の流れがいかにか大変な作業であるか。この一年を振り返り、今更ながらにそう思わざるを得ません。児童の読む・書く活動を適切に適正に、公平に公正に評価するために、そして、本校の現職教育の目標に即して考えると、指導者こそが豊かな表現を目標に、自身が伝える手段として「話すこと」だけではなく、「読むこと」「書くこと」を大切に授業を進めることが肝要となってくるのではないのでしょうか。今年、大学入試の問題の変更について話題になったことは記憶に新しいところです。記述式の答え方では評価が困難であると判断されたからです。今後、改善の方針が示されることになるでしょうが、何れにしても今の社会が求める学力の流れが垣間見え、そしてこの流れの変化は、今後は本流となっていくのではないかと考えます。そんな意味においても、「読むこと」「書くこと」を中心とした評価の研究を今後さらに進めていかなければならないと考えます。

本年度、四箇郷小学校の学力向上の具体的目標は、①学力向上を観点・視点にした研究授業を進める。②基礎学力の定着を図る。③きのくに学力定着フォローアップ事業を活用し中学年での学力向上を図る。としています。これらは、何も学習調査でいい結果を残すためだけの目標ではありません。四箇郷の子供たちが将来仕事を持ち、家庭を持ち、社会に出て生活していくための重要なツールとして、必要とされる学力を子供たちに身につけさせることは、私たちの当然の責務と言えるからです。

各実践において、「社会を生き抜く力を備えた子供を育てる」という本校の教育目標を踏まえているか否かを念頭に置き、さらには、評価の在り方を観点にして本冊子をご高覧いただければ幸いです。

令和2年3月

校長 上田 仁